



2024年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年11月9日

上場会社名 株式会社 アトム

上場取引所 東名

コード番号 7412 URL <http://www.atom-corp.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 小島 保幸

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 佐藤 真一郎

TEL 045-224-7390

四半期報告書提出予定日 2023年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	18,449	8.8	172		112		580	
2023年3月期第2四半期	16,950		543		551		592	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	3.09	
2023年3月期第2四半期	3.15	

(注) 当社は、2022年3月期第2四半期は連結業績を開示しておりましたが、2023年3月期第1四半期から非連結での業績を開示しております。そのため、2023年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	22,727	7,653	33.7
2023年3月期	22,528	8,216	36.5

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 7,653百万円 2023年3月期 8,216百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		0.00		0.00	0.00
2024年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	37,287	5.8	225		315		662		3.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想の修正につきましては、本日(2023年11月9日)公表の「特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	193,559,297 株	2023年3月期	193,559,297 株
期末自己株式数	2024年3月期2Q	443,535 株	2023年3月期	453,465 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	193,108,776 株	2023年3月期2Q	193,099,529 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料・決算説明会内容の入手方法)

当社は、2023年11月16日(木)に機関投資家・アナリスト向け説明会をLIVE配信で開催する予定です。

この説明会の資料については、後日当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、日常生活の制約が緩和され、経済活動の正常化が進みました。一方で、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、円安の進行による原料・資源コストの高騰、エネルギー価格の高止まり及び慢性的な労働力不足の影響等により、引き続き先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、行動制限の緩和に伴いイートイン客数が急回復しております。また、入国制限の緩和以降、インバウンド需要の回復が続いております。一方で、昨年から続く原材料・エネルギー価格及び物流費の上昇を背景に、業界全体で価格改定の動きが継続しております。更なる物価上昇の懸念から消費者の生活防衛意識が高まっているものの、経営環境はコロナ前に向けて回復基調に転じております。

このような状況の中、当社では引き続き「すべてはお客様と従業員のために」という企業理念のもとにQSCA（品質、サービス、清潔、雰囲気）を高め、家庭ではなかなか体験できない様々な料理や高いレベルのサービスをお客様に提供することによって、「楽しかった、おいしかった」とお客様に喜んで頂けるよう努めております。

お客様のご期待にお応えするために、「お得なハンバーグコンボメニューの提供・夏限定の生ビールフェア」など、お客様にお得感を感じて頂けるような取り組みに加え、「大豆ミートハンバーグ・お盆期間限定すし祭りテイクアウト・さんまと秋の味覚フェア」など、お客様がご利用しやすいメニューを展開することで、店内飲食だけでなく、テイクアウト、デリバリーによる飲食機会拡大にも引き続き取り組んでおります。

これらの結果、当第2四半期累計期間における業績は、売上高が184億49百万円（前年同期比8.8%増）、営業損失が1億72百万円（前年同期5億43百万円）、経常損失が1億12百万円（前年同期5億51百万円）、四半期純損失が5億80百万円（前年同期5億92百万円）となりました。

当第2四半期累計期間において、新規出店1店舗、不採算店13店舗、契約満了による1店舗の閉鎖により、当第2四半期会計期間末の店舗数は342店舗（直営店332店舗、F C店10店舗）となりました。また、業態転換を4店舗、リモデルを17店舗行いました。

セグメントの業績の概況は、次のとおりであります。

<レストラン事業>

レストラン事業につきましては、新規出店1店舗（「カルビ大将」）、業態転換を2店舗（「味のがんこ炎」から「カルビ大将」へ2店舗）、リモデルを13店舗（「ステーキ宮」8店舗、「にぎりの徳兵衛」4店舗、「海鮮アトム」1店舗）、不採算店2店舗（「ステーキ宮」1店舗、「海鮮アトム」1店舗）の閉鎖を行い、当第2四半期会計期間末の店舗数は252店舗となりました。

レストラン事業の当第2四半期累計期間の売上高は、153億77百万円（前年同期比9.5%増）となりました。

<居酒屋事業>

居酒屋事業につきましては、業態転換を2店舗（「寧々家」から「いろはにほへと」へ2店舗）、リモデルを2店舗（「いろはにほへと」2店舗）、不採算店11店舗（「やきとりセンター」1店舗、「寧々家」5店舗、「いろはにほへと」2店舗、「甘太郎」1店舗、「ぎんぶた」1店舗、「暖や」1店舗）、契約満了による1店舗（「いろはにほへと」1店舗）の閉鎖を行い、当第2四半期会計期間末の店舗数は55店舗となりました。

居酒屋事業の当第2四半期累計期間の売上高は、21億4百万円（前年同期比13.6%増）となりました。

<カラオケ事業>

カラオケ事業につきましては、リモデルを2店舗（「時遊館」2店舗）行い、当第2四半期会計期間末の店舗数は25店舗であります。

カラオケ事業の当第2四半期累計期間の売上高は、7億90百万円（前年同期比19.8%増）となりました。

<たれ事業>

たれ事業の当第2四半期累計期間の売上高は、1億62百万円（前年同期比51.1%減）となりました。

<その他の事業>

その他の事業につきましては、当第2四半期会計期間末の店舗数はF C店10店舗であります。

その他の事業の当第2四半期累計期間の売上高は、15百万円（前年同期比73.6%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産・負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ1億98百万円増加し、227億27百万円となりました。その要因は現金及び預金を主とした流動資産の増加2億円、業態転換とリモデルによる有形固定資産の増加2億36百万円、敷金及び保証金の回収を主とした投資その他の資産の減少2億33百万円によるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ7億61百万円増加し、150億74百万円となりました。その要因は短期借入金の返済を主とした流動負債の減少2億89百万円、長期借入金を主とした固定負債の増加10億51百万円によるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ5億63百万円減少し、76億53百万円となりました。その要因は四半期純損失の計上5億80百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は33.7%（前事業年度末は36.5%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は59億86百万円となり、前事業年度末に比べ4億17百万円増加致しました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は7億33百万円となりました。

これは主に減価償却費（5億49百万円）、売上債権の減少（2億35百万円）、未払消費税等の増加（2億96百万円）によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は14億56百万円となりました。

これは主に有形固定資産の取得による支出（15億8百万円）によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は11億41百万円となりました。

これは主に長期借入による収入（25億円）、短期借入金の返済による支出（5億円）、長期借入金の返済による支出（7億12百万円）、ファイナンス・リース債務の返済による支出（1億45百万円）によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、本日（2023年11月9日）公表の「特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。なお、今後の消費動向などにより業績予想に修正が必要となる場合は速やかに公表致します。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,568	5,986
売掛金	1,232	997
有価証券	-	15
棚卸資産	275	273
その他	516	521
流動資産合計	7,593	7,793
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	5,669	5,739
その他（純額）	3,225	3,393
有形固定資産合計	8,895	9,132
無形固定資産	96	90
投資その他の資産		
敷金及び保証金	3,885	3,804
その他	2,091	1,938
貸倒引当金	△32	△32
投資その他の資産合計	5,943	5,710
固定資産合計	14,935	14,933
資産合計	22,528	22,727
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,516	2,537
短期借入金	2,150	1,650
1年内返済予定の長期借入金	1,302	1,811
未払法人税等	134	61
資産除去債務	218	310
賞与引当金	81	75
販売促進引当金	765	801
店舗閉鎖損失引当金	52	92
その他	3,238	2,829
流動負債合計	10,459	10,170
固定負債		
長期借入金	2,045	3,323
資産除去債務	1,325	1,245
その他	482	335
固定負債合計	3,852	4,903
負債合計	14,312	15,074
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	10,645	8,321
利益剰余金	△2,328	△580
自己株式	△183	△179
株主資本合計	8,233	7,661
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△17	△8
評価・換算差額等合計	△17	△8
純資産合計	8,216	7,653
負債純資産合計	22,528	22,727

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	16,950	18,449
売上原価	5,737	6,385
売上総利益	11,212	12,064
販売費及び一般管理費	11,756	12,236
営業損失(△)	△543	△172
営業外収益		
不動産賃貸料	58	54
補助金収入	2	33
その他	32	57
営業外収益合計	93	145
営業外費用		
支払利息	30	27
不動産賃貸原価	51	46
その他	18	11
営業外費用合計	100	85
経常損失(△)	△551	△112
特別利益		
助成金収入	54	—
固定資産売却益	1	2
投資有価証券売却益	—	2
その他	0	—
特別利益合計	55	5
特別損失		
固定資産除却損	53	106
減損損失	—	133
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	85
その他	—	2
特別損失合計	53	328
税引前四半期純損失(△)	△549	△435
法人税、住民税及び事業税	61	48
法人税等調整額	△18	95
法人税等合計	42	144
四半期純損失(△)	△592	△580

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失 (△)	△549	△435
減価償却費	495	549
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	—
販売促進引当金の増減額 (△は減少)	△3	35
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	△30	40
災害損失引当金の増減額 (△は減少)	△17	—
支払利息	30	27
固定資産除却損	53	106
減損損失	—	133
助成金収入	△54	—
売上債権の増減額 (△は増加)	154	235
棚卸資産の増減額 (△は増加)	25	2
未収入金の増減額 (△は増加)	667	12
仕入債務の増減額 (△は減少)	239	21
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△213	296
その他	467	△141
小計	1,265	883
利息及び配当金の受取額	2	2
利息の支払額	△30	△30
助成金の受取額	270	—
臨時休業等による損失の支払額	△51	—
法人税等の支払額	△123	△122
法人税等の還付額	97	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,431	733
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△481	△1,508
投資有価証券の売却による収入	—	26
敷金及び保証金の差入による支出	△29	△20
敷金及び保証金の回収による収入	90	76
資産除去債務の履行による支出	△35	△15
その他	△20	△16
投資活動によるキャッシュ・フロー	△475	△1,456
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	150	△500
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△191	△145
長期借入れによる収入	680	2,500
長期借入金の返済による支出	△689	△712
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△51	1,141
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	903	417
現金及び現金同等物の期首残高	7,067	5,568
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,970	5,986

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。